

2022年度 神戸教区神学塾（信徒の神学）No.6

— 「信仰を生活するために」 —

司祭 フランシス 小林史明

（序）2020年、「家庭で守る礼拝」を考えた

新型コロナウイルスの蔓延が話題になり始めた2020年の8月、宮崎県でも感染者が増えて、教会で礼拝すること自体高齢者が多い教会にとって危険と感じ、9月4日からしばらく主日礼拝を休止する決断をしました。それまでは毎月第1日曜日に新しい教区報や過去1か月分の週報等をまとめて郵送し、その中に当日の説教文と一緒に入れていました。しかし、教会で礼拝できないために説教しない、というのはよくない。逆に、毎週教会での礼拝に参加できない人々には、今こそ祈りが必要な時だと考え、向う1か月の説教の綴りを送ることにしました。礼拝は再開されていますが、説教の送付は2年半以上続いています。その中には、毎週の週報に書いている信徒の記念日、日曜日に読む聖書箇所や唱える詩編番号、聖歌番号などを入れたカレンダーを作っています。そして最近、日曜日に唱える詩編についての説明や、聖書クイズなども入れていますが、肝腎なのは、家庭で何時でも礼拝できる、聖餐式や朝夕の礼拝よりも簡素なかたちの「家庭で守る礼拝」を取り入れたことでした。そして、時々「家庭で守る礼拝」解説書と使い方も入れてあります。

（1）朝夕の礼拝や日本の「み言葉の礼拝」などを学びながら

皆さんは、普段どんな礼拝をしておられますか。教会では祈禱書を使つての聖餐式。司祭がない時は、朝の礼拝やみ言葉の礼拝などをされていることでしょうか。最近では、「み言葉の礼拝」というのが各地で定着しているようです。しかし、たまたまでしょうか私の前任地の教会や兼任して出かけた教会の人々は、私が赴任する前から、祈禱書にない「み言葉の礼拝」を拒否して、伝統的な「朝の礼拝」を守っているのです。私はそれまでしばらく牧師の仕事から離れて教員をしていたので、あまり現状の把握ができませんでした。現在のみ言葉の礼拝は、司祭である私にはそれに参加する資格がないのです！？ というのは、式文の末尾にある使用上の一般指針を見ると、「主日、あるいは祝日に司祭が不在であっても」という、特定の時に、「司祭以外の人々が礼拝をしようとする場合」のような、限

定されたものと定義されているのです。日曜日、私がその会衆のために、実験的に「み言葉の礼拝と陪餐」をしようとする、と、「司祭がいるのなら聖餐式をしなさい」という指示があって、この礼拝を実際に行なうことができないのです。み言葉の礼拝が普及したのは、信徒の皆さんには聖餐式が慣れていて、「み言葉の礼拝」はそれに似た形式なので、朝の礼拝よりも受け入れやすかったのだらうと思います。

ある大斎節の勉強会で、「朝夕の礼拝の学び」を続けていると、その会衆が拒否しているみ言葉の礼拝というのは、聖餐式をもとにしたものというより、元々の英国やアイルランドなど英語圏では、朝夕の礼拝である公禱から発展したものだとわかってきました。そして、宮崎に来て、コロナ禍、教会で主日礼拝ができない時、英国やアイルランドの祈禱書に出てきたみ言葉の礼拝を参考にしたいと思いつき「家庭で守る礼拝」を考案しました。

(2) イングランドやアイルランドの祈禱書を参考に

ここで、現在のイングランドとアイルランドのみ言葉の礼拝の位置づけを比較するために、それぞれの祈禱書の目次を次の頁に並べてみます。左がイングランドのもの、右がアイルランドのものです。これを比較する前に、少し説明が必要です。

左のものは、2000年のイングランドの祈禱書（英語名称 Common Worship）では、A Service of the Wordという名称になっています。

右のものが、2004年のアイルランドの祈禱書（英語名称 The Book of Common Prayer）で、Service of the Wordというタイトルになっています。

（ ）内の言葉が違うでしょう。イングランドの正式な祈禱書はいまだに、1662年の The Book of Common Prayer なので、2000年に発行されたものは、今まで次々に発行された祈禱書の一つでしかないので、Common Worship という名称なのだらうと思います。その点、アイルランドは、正式な祈禱書で、アメリカのものも同様です。

まず左のイングランドのコモンワーシップの目次を見てください。日本の祈禱書同様に、最初に教会暦（カレンダー）があり、そのあとに日本では朝夕の礼拝が入るのですが、イングランドのものは、簡単な骨組みだけのようのみ言葉の礼拝ですが、朝夕の礼拝の前に置かれて、少し説明文があります。

一方、右のアイルランドの目次の方は、その後も続きがありますが、教会暦やそれに関連しての日課表やイースターの日程の次に、赤い字で朝夕の礼拝というタイトルの範疇に、朝夕の礼拝に関連して、いろんな礼拝等が並び、最後に「み言葉の礼拝」が来ます。

(イングランドの祈禱書の目次)

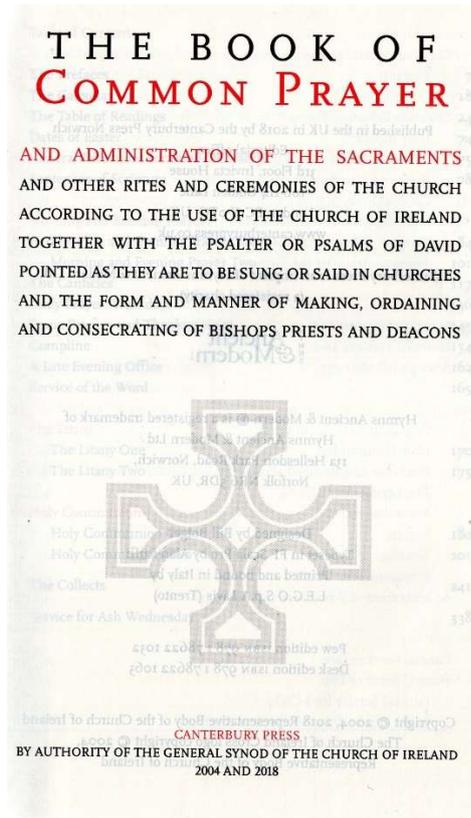
(アイルランドの祈禱書の目次)

Contents	
Authorization	vii
Preface	ix
The Declaration of Assent	xi
I	The Calendar
19	A Service of the Word, Morning and Evening Prayer, Night Prayer
	Contents 19
	A Service of the Word 21
	Morning and Evening Prayer on Sunday 29
	Morning and Evening Prayer from <i>The Book of Common Prayer</i> 59
	Night Prayer (Compline) 81
	Night Prayer (Compline) in Traditional Language 88
	Prayers for Various Occasions 101
	The Litany 111
	The Litany from <i>The Book of Common Prayer</i> 115
	Authorized Forms of Confession and Absolution 122
	Credo and Authorized Affirmations of Faith 138
155	Holy Communion
	Contents 157
	A Form of Preparation 161
	Order One 166
	Order One in Traditional Language 207
	Order Two 228
	Order Two in Contemporary Language 249
	Supplementary Texts 268
	Seasonal Provisions 300
	Notes 330
337	Thanksgiving for the Gift of a Child
344	Holy Baptism
375	Collects and Post Communions
448	Collects and Post Communions in Traditional Language
525	Rules
537	Lectionary
593	The Psalter
775	Canticles
815	Authorization Details
817	Copyright Information
818	Acknowledgements and Sources
824	Index of Biblical References
837	General Index

Table of Contents	
The Prefaces	7
The Calendar	18
The Table of Readings	24
Dates of Easter	74
General Directions for Public Worship	75
Sentences of Scripture	78
Morning and Evening Prayer	
Morning and Evening Prayer One	84
Morning and Evening Prayer Two	101
The Canticles	117
Daily Prayer: Weekdays	136
Some Prayers and Thanksgivings	145
Compline	154
A Late Evening Office	162
Service of the Word	165
The Litany	
The Litany One	170
The Litany Two	175
Holy Communion	
Holy Communion One	180
Holy Communion Two	201
The Collects	241
Service for Ash Wednesday	338

イングランドのものに不定冠詞「A」がついているのは、この本自体も正式なものではないので、このみ言葉の礼拝もそのうちのひとつ、という意味でしょう。一方アイルラ

ンドのものには冠詞がないので、正式な式文として認められているのでしょう。もう少し、アイルランド聖公会の説明をすると、アイルランドは20世紀の初めに英国から独立した共和国で、島の北東部の一部は国境を挟んで英国に属しているのですが、島全体がアイルランド聖公会の祈禱書を使っているようです。アイルランド聖公会の中心は、共和国の首都ダブリンですが、アイルランド聖公会のホームページを見ると、国境を越えた英国領の大きな都市ベルファストやロンドンデリーもアイルランド聖公会に属していて大聖堂もあります。このアイルランド聖公会の祈禱書は国境をこえて使われているんですね。



これが、アイルランド聖公会の祈禱書の表紙です。1662年のイングランド聖公会の正式な表紙とよく似ているでしょう。アメリカ聖公会の祈禱書ともよく似ています。2004年にできて、2018年に増補されたようです。そして「公禱」と「聖奠（ sacrament）の執行」だけは、赤字で印刷されていますね。

二つの祈禱書の目次を見ても明らかなように、「み言葉の礼拝」は、朝夕の礼拝同様、前回のテキストで引用したように、シェパード氏の言葉を借りるなら、これは「信徒の礼拝」と呼べるもの（公禱）に属し、本来の祈禱書「The Book of Common Prayer（信徒の祈りの本）」の真髄のように私には思えました。

さて、どうして、み言葉の礼拝が作られることになったのでしょうか。その事情は、このアイルランド聖公会の祈禱書についての説明書が端的に表現していたので紹介します。

（3）アイルランド聖公会が「み言葉の礼拝」を作った理由

『教会の中には、従来の決められた朝の礼拝とか夕の礼拝、あるいは聖餐式では、特定の会衆の必要を満たすことができない場合がある、ということが広く認められています。「家族の礼拝」とか「すべての世代のための礼拝」、またキリスト教にあまり関わりがない友人を招く人々の、「伝道的な礼拝」など様々な形式ばらない礼拝のかたちの実験がこれまであったからです。このみ言葉の礼拝の基本的な構造は、そのようなすべての礼拝のことを念頭に置いているのです。』

それぞれ伝統的な礼拝だけでは対応できない状況があり、いろんな式文が提案されてきたのです。私たち日本聖公会でも文語の時代、「家族の朝の祈り」「家族の夕の祈り」というのが「午禱」や「終禱」と一緒に付録として入っていましたし、現在の祈禱書にも「朝夕の祈り」の中で、それらを踏襲しています。伝統的な朝夕の礼拝や聖餐式では、信徒の日常生活で礼拝を守ることは困難なので、日本でもすでに工夫がされてきているのです。

私が神学生だった頃は、祈禱書を文語から口語へ移行しようとする時期で、神学校の礼拝では1週間ごとに文語と口語とを交互に使用し、早晚禱(朝夕の礼拝のこと)も聖餐式も、1年サイクルでしたが、毎週日曜日の聖餐式でも旧約を読むように試みられていました。その後聖餐式はA年からC年まで3年サイクルになりました。また、朝夕の礼拝も第1年と第2年ができて2年サイクルになりました。それらのイメージは、礼拝に多くのものが取り込まれて、結果的に長い礼拝時間になった印象があります。そのような伝統を守っていただけでは、「特定の会衆の必要を満たすことができない場合がある」とアイルランド聖公会の説明文は言うのです。そして、最近の傾向は、礼拝を短くして、読む聖書もあれこれではなく、限定して強調点を絞るような傾向を感じます。

(4) 礼拝の基本 神様との対話で呼吸することにより、生きた者となる

私たち人間はどのようにして造られたと聖書は語っているのでしょうか。アダムが造られた時のことを思い出してください。前回のテキストで触れたことです。

『主なる神は、土(アダム)の塵で人(アダム)を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。』(創世記 2:7)

これにもう少し説明を加えると、土の塵にすぎない私たちが、生きる者となるのは、神様からの息を体に吸い込み、またその息を体から吐き出すことで呼吸は成立するからです。

前回は触れましたが、私たちが祈禱書(信徒の祈りの本)を使うのは、毎日神様からの息を体を受けて、私たちの口から讚美や祈りの息が出て行くようにするためです。朝夕の礼拝の最初に、ルブリックという小さな字で説明がありました。

「毎日聖書を朗読し、詩編を歌って神をほめたたえ、祈りを献げて日々の生活を神と人とのために清めることは、初代教会からの営みであった。わたしたちも、「朝の礼拝」「夕の礼拝」によってこの営みに加わるのである。」と書かれています。(祈禱書18頁)

そして、聖書の詩編を編んだ作家は、私たちの応答について次のように語ります。

『命ある限り、わたしは主に向かって歌い／長らえる限り、わたしの神にほめ歌をうたおう。』(詩編104:33, 尚146:2にも同様の言葉があります)

それでは、この世の生活が終わると、私たち人間はどうなるのでしょうか。

コヘルトの言葉（旧・伝道の書）12章7節に「塵は元の大地に帰り、霊は与え主である神に帰る」と書かれています。

ですから、現在肉体を持っている私たちは、神様からいただく恵みに感謝し、主を賛美する生活を送るんだ、ということです。あの有名な「いともかしこし・・・」の讚美歌、（聖公会の場合は聖歌集403）で繰り返し「世にあるかぎり イエスの栄えと いつくしみとを 語り伝えん」と歌います。

（5）元々の「み言葉の礼拝」の構造について

イングランドのみ言葉の礼拝本文を訳したものを紹介します。アイルランドのものもほぼ同じです。驚かれるかもしれませんが、これは式文と言うより、礼拝の骨組みみたいなもので、4つの部分からできています。（準備）（言葉の典礼）（祈り）（結び）の4つです。

【み言葉の礼拝】（本文）

（準備）

司式者はあいさつで人々を歓迎する。

認可された悔い改めの祈りは、ここで用いるか、あるいは3番目の祈りのところで用いる。

詩編第95編、キリエ、グロリア、聖歌、賛美、あるいは一連の応答を使ってもよい。

特祷はここか、3番目の祈りのところで唱える。

（言葉の典礼）

これには、次のものが含まれる。

- （複数かひとつになるか）聖書からの朗読。
- 詩編あるいは、場合によっては聖書の中の歌。
- 説教
- 信経あるいは特別な信仰宣言。

（祈り）

これらには次のものを含める。

- 代祷と感謝の祈り
- 主の祈り

（結び）

この礼拝は祝祷、派遣の言葉あるいは儀式的終了の言葉で結ぶ

(6) 2020年8月、宮崎聖三一教会の信徒に提案した家庭で守る礼拝

このイングランドの A Service of The Word (み言葉の礼拝) を私は次のようにまとめ、「日曜日の家庭での礼拝」と「日曜日以外の家庭での礼拝」の構造を提唱しました。

これもイングランドのみ言葉の礼拝のように、4つの部分に分けました。

①準備 ②み言葉 ③祈り ④結び です。

日曜日の家庭での礼拝(祈り)

①準備 懺悔と赦しの祈り(祈禱書19ページ)の祈りをして、詩編95編か100編を唱える。その後、説教のタイトルの前に書かれた教会暦(特定〇〇など)に合わせて、祈禱書199ページからの、その週の祈りを唱えるようにする。

②み言葉 各週の特禱の次のA年、B年、C年のうちの(今年はA年)原則として福音書を読む。これについて、黙想したあとで、牧師の説教文を読む。そのあとで使徒信経(30ページ)を唱える。

③祈り 主の祈り(31頁)を唱える。その次に、祈禱書108ページから142ページにある諸祈禱や感謝から、いくつか選んで、祈る。

④結び 祝禱(祈禱書35ページ)を唱える。(複数の参加者がある場合、派遣の言葉(祈禱書183ページ)の執事または司祭と会衆の言葉)を唱える。

*尚、この最初や最後に聖歌など工夫して入れる。

日曜日以外の家庭での礼拝(祈り)

*この場合は、毎回変化を加えるために工夫する。

①準備 上記のほかに、ザカリヤの賛歌(P23)、イザヤ第1の歌(24)、イザヤ第2の歌(25)、賛美の歌(27)、万物の歌(28)、マリヤの賛歌(38)、シメオンの賛歌(39)、贖われた者の賛歌(66)、主への賛歌(72)、キリストの栄光の賛歌(73)、小羊への賛歌(74)、復活の歌(75)、世の救い主への歌(76)、ほかいろんな詩編を取り入れて賛美から始める。

②み言葉 祈禱書には558ページから第1年、606ページから第2年(今年は第1年)の毎日の朝夕の詩編や旧約あるいは旧約続編、新約の箇所が書かれているが、多すぎて、負担になったり断片的になるので、何か聖書のなかの1書(例えば「創世記」、「ヨハネによる福音書」)を最初から1章ずつ読んで、そのたびに黙想する。その書物を読んで疑問点などがあれば、自分で調べたり、牧師に質問や感想を述べて話し合う。黙想のあとは使徒信経を唱える。

③祈り 主の祈りを唱えた後、上記のところにはたくさんの祈りがあるので、祈りたいことを考えて、選んで祈る。もし該当する祈りがない場合は、自分で作る努力を試してみる。

④結び 上記にならう。

*これらの家庭での礼拝（祈り）を通して、日曜日の教会での礼拝では触れることが少ない、神様への賛美の多くの歌や聖歌にも触れ、また、世界の多くの問題についても考えることをしてみる。ある神学者は「考えることは、思索としての祈りである」と言っている。

(以上)

どちらも私たちが口を開いて、「①準備」の祈りや詩編などから始まり、「②み言葉」と「③祈り」という、吸うことと吐くことに展開していることがわかるでしょう。複数の聖書箇所を読む礼拝でも、②の吸うことと①③の吐くことを繰り返しているのです。

(7) 私たちが礼拝することの意味を考えよう

ここまで、私たちの信仰生活が、日曜日の教会の中だけの礼拝生活だけではなく、毎日の生活の中で、聖書を読み、詩編を歌って、祈りをささげること（祈禱書18頁）のために、朝夕の礼拝やそれから派生した、イングランドやアイルランドのみ言葉の礼拝ができたことを見てきました。そしてコロナ禍の宮崎でもこのような工夫をしてきました。これらを通して、私たち人間は礼拝するために造られた、と言えるのではないのでしょうか。

しかし、「私たちは礼拝するために造られた」と言ったところで、クリスチャンにもなかなか理解してもらえないでしょうし、ましてや無宗教の現代人には伝わらないでしょう。そこで、「礼拝」という言葉について、特に次の聖句を知っていただきたいと思います。

『こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。』ローマの信徒への手紙12章1節

この聖句の「礼拝」の意味をもう少し詳しく見てゆきましょう。

次に紹介するのは、新約聖書の原典であるギリシャ語の、ローマの信徒への手紙12章1節の部分の英語の意味を載せたものからの引用です。赤い囲みの言葉に注目してください。

12.1 Παρακαλῶ σὺν ὑμᾶς, ἀδελφοί, διὰ τῶν
 THEREFORE~I URGE YOU*, BROTHERS, THROUGH THE
 οἰκτιρῶν τοῦ θεοῦ παραστήσαι τὰ σώματα ὑμῶν
 COMPASSIONS - OF GOD TO PRESENT THE BODIES OF YOU*
 θυσίαν ζῶσαν ἁγίαν εὐάρεστον τῷ θεῷ, τὴν
 A SACRIFICE LIVING, HOLY, WELL-PLEASING - TO GOD, [WHICH IS] THE
 λογικὴν λατρείαν ὑμῶν. 12.2 καὶ μὴ συσχηματίζεσθε
 SPIRITUAL SERVICE OF YOU*; AND DO NOT BE CONFORMED
 τῷ αἰῶνι τούτῳ, ἀλλὰ μεταμορφούσθε τῇ ἀνακαινώσει
 - TO THIS~AGE, BUT BE TRANSFORMED BY THE RENEWING

I appeal to you therefore, brothers and sisters,^m by the mercies of God, to present your bodies as a living sacrifice, holy and acceptable to God, which is your spiritualⁿ worship.² Do not be conformed to this world,^o but be transformed by the renewing of your minds, so that you may discern what is the will of God—what is good and acceptable and

見慣れない文字（ギリシャ語）ですが、新約聖書の原典であるギリシャ語の本文に出てくる文章のそれぞれの単語の下に、英語でその意味を書いています。そして参考に、右側に英語の聖書の文章を載せています。この英語の文章は、新改訂標準訳聖書 New Revised Standard Version、略称：NRSV）で 1989 年に発行した英語訳聖書です。

このギリシャ語原典で使われている「礼拝」という言葉の意味を知るために、二つを比較してみました。引用しているのは、ローマの信徒への手紙第 12 章 1 節を含む部分です。そして赤い線で囲んでいるのが、礼拝を表わす言葉のギリシャ語（ラトリューエイアン）とその意味の「SERVICE」、そして右の英語の聖書ではその部分が、「worship」、となっています。元のギリシャ語をどうして別の単語に訳しているのか、疑問に思われるかもしれません。ギリシャ語には、英語や日本語同様、一つの単語に複数の意味があるのです。ここについての聖書学者ウィリアム・バークレーの説明を引用します。

（8）ローマ 12 章 1 節についてのウィリアム・バークレーの解説

欽定訳聖書が「奉仕 (service)」と訳し、われわれが「礼拝 (worship)」と訳している第 1 節のことは興味ある歴史をもったことばである。それはラトレイアという言葉で、動詞ラトリューエインの名詞形である。元来はラトリューエインという語は、雇われて働く、または給料をうけて働くことを意味する。それは労働者について用いられることばで、労働者は雇い主から受けた給料の返礼として主人や雇い主に自分の労働を提供する。それは隷属ではなく、自発的に仕事を引き受けることを意味している。それから一般に奉仕を意味するようになった。また、人が自分の全生涯をささげることを意味するようにもなった。たとえば、人はラトリューエイン・カレエイ（呼び出されて働く者）であると言えよう。

それは自分の生涯を美のためにささげることの意味する。その意味で、自分の生涯をささげること大体意味するようになった。そして最後にこのことばは、特殊な場合に神々の礼拝に用いられるようになった。聖書ではそれは、人間への奉仕を決して意味しない。それはいつも神の礼拝と神への奉仕に用いられている。

さてここにはもっと深い意義がある。

真の礼拝、真実の霊的礼拝は、自分のからだを、また、日々からだを用いて生活することのすべてを神にささげることである。真実の礼拝は神に念入りな祈りをささげることでも、儀式を神にささげることでもない—それは尊い礼拝式であり、荘厳なものではあるが、真実の礼拝とは日々の生活を神にささげることである。真実の礼拝は教会においてのみ、なされるものではない。真実の礼拝はすべての世界を生ける神の宮とみなし、おのおのの日常の行為を礼拝の行為とみなすことである。(中略)

人は「わたしは神を礼拝するために教会に行っている」と言うであろう。しかし同時に、「私たちは神を礼拝するために、工場、店、役所、学校、ガレージ、機関車、鉱山、造船所、田畑、牛舎、庭園に行っている」とも言えなければならない。

(9) 「なんのために生まれて、なにをして生きるのか」

これは、あのアンパンマンの主題歌の一部です。最初の言葉を書き出してみます。

「そうだ うれしいんだ 生きるよろこび たとえ 胸の傷はいたんでも
なんのために生まれて なにをして 生きるのか
こたえられないなんて そんなのは いやだ」 (やなせたかし 作詞)

あなたはこの問いにどのように、自分自身の言葉で答えますか？

この回答のひとつの例として、パウロは人間がその人生のすべての時間、すべての空間で神を礼拝(奉仕)することだと言いました。そしてインドのカルカッタで働いていたマザーテレサは「ご聖体のうちに、わたしはキリストをパンの形で見ます。スラムでは、キリストを貧しい人々の心痛む姿の中に見ます。傷ついた体、子どもたち、そして死にかけた人々の中にです。だからこそ、わたしはこの仕事ができるのです。」と言いました。

私は2021年、相次いで、大変世話になった友人たちを亡くしました。そして、改めて人生の意味を考え直すことになりました。第3回のテキストで紹介した、歴史作家加治将一という人が、【人生の最後の瞬間に、君は何を思うか】という動画の中で、生涯の最後に「いい人生だった」と思うための秘訣を語っていました。古代エジプトに伝わるお話らしいのですが、死後の世界、天国への門の前で死者は二つの質問を受けるとのことらしい。

①自分の人生に、喜びを見出せたか？ ②他人の人生に、喜びを与えられたか？

そしてそのためには「赦す」「誉める」「励ます」「助ける」ということを心がけている、と言いました。これにはもっと説明が必要ですが、省略します。考えてみてください。

①と②のことを、2007年のアメリカ映画「最高の人生の見つけ方」(Bucket List)の中でもモーガン・フリーマンという俳優が、末期がんの患者役で紹介していました。

余命半年という二人の男が、死ぬまでにやっておきたいこと「棺おけリスト (Bucket List)」を書き出して実行する話です。これが映画の英語の原題ですが、彼らがエジプトへ旅をしてピラミッドの上に立った時、エジプトに伝わる伝説を語ります。人間は死んだら、死後の世界、天国への門の前でその門番から二つの質問を受けるとのことらしい。①自分の人生に、喜びを見出せたか？②他人の人生に、喜びを与えられたか？ これに両方肯定する回答ができた人が、天国に入れてもらえる、という話です。

第2回のテキストで、ウェストミンスター小教理問答の最初の問答を引用しました。

Q.人の生きるおもな目的は何か？

A.神の栄光をあらわし、永遠に神を喜ぶことである。

どちらにも「喜び」という言葉が出てきました。

そんな中で私の心に浮かんだのは、中学生の時、国語の教科書で学んだ、石川啄木の短歌です。

「こころよく／我にはたらく仕事あれ／それを仕遂げて死なむと思ふ」

まさに私たちの人生の目的を歌ったものでしょう。ちなみに、石川啄木の妹ミツは、婦人伝道師として九州の聖公会で働き、のちに司祭三浦清一と結婚。神戸に移って、夫の死後も清一が設立した救貧施設・愛隣館を継いで館長に就任。貧しい人々の救済に尽力すると共に、日本聖公会神戸昇天教会の忠実な信徒として働き続けました。1968年逝去ですから、直接会った方もおられるでしょう。「三浦ミツ」で検索してみてください。

(10) 最後はベートヴェンの交響曲第9番「歓喜の歌」

私は最近1台のパソコンで仕事をしながら、隣に2台目のパソコンを置いて、クラシック音楽を聴きながらの生活をしています。

そんな中でベートーヴェンの生涯や彼の最後の交響曲第9番の解説を聞いていますと、彼の生涯でも「喜び」という言葉が強調されていました。恵まれた才能がありながら、音楽家としての致命的な「難聴」のために、ハイリゲンシュタットの遺書と言われる手紙に次のように書いています。

「おお、神の摂理よ！ どうかもう一度喜びに満ちた一日を私に見させてください。もう私の心の中に真の喜びがなくなってから、どんなに長い時間が経ったことでしょうか。いつ？ おお、神よ！ いったいいつになったら私は自然と人間との神聖なる世界の中で、再びその喜びを見出す事が出来るのでしょうか？ もう二度とない？ ああ、それはあまりにも酷すぎます！ 私が自分の人生を終わらせるまで、あと少しだった。芸術だけ、芸術だけが私を引きとどめてくれたのだ。私には自分が使命を果たすまでは、この世を後にすることができないと思われたのだ。」

そして再び作曲に喜びを見出して、この遺書を書いた20年後、彼の晩年ですが、ついに交響曲第9番を作ります。そして、自分の生き甲斐となった音楽の喜びを、ただ自分だけで味わってはいけない。共に喜びを分かち合う仲間が必要だと主張します。そして、それまでの交響曲にはなかった、独唱や合唱をこの交響曲に取り入れて、喜びを歌うのです。

(11) 改めて聖書の教えが迫ってきた

加治さんは特定の宗教に属する人ではないのですが、彼はしばしばキリストの話引用します。そして「人生の最後の瞬間に、君は何を思うか」の動画を見ていると、聖書の教える隣人愛『自分自身を愛するように隣人を愛しなさい』（レビ記19章18節）を、具体的な方法で示しているように思えました。私は本当に自分の人生に喜びを見出しているか。隣人を喜ばせる存在になっているか。石川啄木の歌やベートーヴェンの歓喜の歌などを思いめぐらし、私の生き方を考えさせられています。

最後に、石川啄木のもう一つの歌を引用します。中学の時、教科書に出ていたもう一つの歌です。

「こころよき 疲れなるかな 息もつかず 仕事したる後の この疲れ」
こんな気持ちで生涯を終わりたいと思うのです。